



—湾岸・アラビア半島地域ニュース—

サウジアラビア：イラン外相の招待

5月13日、シリア問題について協議するアラブ連盟臨時外相会議の場において、サウジアラビアのサウド・ファイサル外相は、サウジアラビアがイランのザリーフ外相にリヤードを訪問するよう招待状を渡していたことを明らかにした。イラン側からの返答はまだないものの、サウド外相は「我々は、(ザリーフ外相が)訪問に適していると思う時期であればいつでも喜んで受け入れる」、イランは隣国であり、「我々はイランと交渉するし、対話する」と述べた。招待状を渡した時期については言及していない。

サウジアラビアとイランは、核問題のみならず、サウジアラビア及びバハレーン国内のシーア派への支援や、レバノンのヒズブッラー、イエメン北部のフーシー派への対応などを巡って、対立してきた。近年では、シリア紛争における対応を巡る対立も深まっていたが、サウド外相は「イランが地域の安定と繁栄の努力の一部となることを期待する」と述べている。

2013年8月に誕生したロウハーニー政権は、前政権の外交政策によりイランが国際社会から孤立したことを批判し、就任以来近隣諸国との関係改善を訴えてきた。サウジアラビアとの関係に関してもロウハーニー大統領は、2014年3月3日に駐イラン・サウジアラビア大使の着任挨拶を受けた際に、「イランとサウジアラビア間の対話と協力は(中東)地域全体の安定と安全にとって効果的であることは疑いない。両国の関係改善の可能性は高い」と述べている。

今回サウジアラビア側から招待状が発出されたということは、サウジ政府にもイランとの関係改善を進める準備があるということだろう。2014年3月8日にはロウハーニー大統領への招待状がサウジアラビアから出され、ロウハーニー大統領が受領したとレバノンの『Daily Star』紙等が報じたが、3月15日にイランのホセイン・フェリドゥーン行政担当大統領補佐官が同事実を否定している。

ザリーフ外相は既に2013年12月にクウェイト、カタール、オマーン、2014年4月にUAEを訪問しており、バハレーンを除いた湾岸アラブ諸国との関係改善に動いている。ザリーフ外相のサウジアラビア訪問によって二国間が抱える懸案が全て解決するわけではないが、両国の関係改善が進んでいけば、地域情勢は大きく変わる可能性がある。

(村上研究員)

©本「かわら版」の許可なき複製、転送、引用はご遠慮ください。

ご質問・お問合せ先 公益財団法人中東調査会 TEL:03-3371-5798、FAX:03-3371-5799